



Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

私たちは、「武力で平和はつukれない」という信念に基づき、安全保障法制に反対し、廃案を求めます。

特集

人権

女性の人権の回復と、暴力のない社会を目指す取り組みの一つとして、東京YWCAでは、DV(ドメスティック・バイオレンス)の被害者を支援する人たちのための「支援者エンパワメントプログラム」を開発し、支援現場の底上げに取り組んでいます。

“多くのDV被害者の力につなげる”

親密な関係にある当事者間の暴力事件は後を絶たず、内閣府の調査では女性の約4人に一人は配偶者から被害を受けたことがあり、被害を受けた女性の約9人に一人は命の危険を感じた経験があるといいます。また、子どもにとってDVのある家庭で育つことは、発達や成長において生涯にわたり影響を及ぼします。しかし、「DVは人権侵害である」という認識は社会の中で希薄で、「なぜ逃げない?」「暴力を振るわれる方も悪いのでは?」と被害者を責める風潮があります。

被害者を支える大きな存在 支援者の置かれている現状

被害者が、加害者からの暴力、周囲の無理解や自分を責める心理により社会か

ら孤立する中で、「あなたは悪くない!」と言い、相談に応じる支援者は大きな支えです。

被害者を、場合によってはその子どもとともに安全に保護し自立に向けてサポートすること、加害者のもとにとどまる被害者に安全計画を提供すること等は容易ではありませんが、支援者の果たす役割の大きさに比して置かれている立場は、厳しい状況にあります。加害者からの追跡という危険を伴う仕事でありながら、多くは非常勤という不安定な身分で、補償もありません。ひとつ判断を間違えると被害者の人命にかかわるという緊張感と重圧の中で、支援者自身を支えるし

くみが不足しています。いま、支援現場では、支援者の待遇やメ

ンタルヘルス、人手不足、財源不足が深刻な問題となっており、支援の先細りが懸念されています。

支援者のエンパワメントが より多くの被害者の力に

東京YWCAでは、DV被害者が自分の人生を取り戻し回復するためには、被害者を支える支援者のエンパワメントが必要であると考えています。

「支援者エンパワメントプログラム」は、「暴力を受けていい人間などいない」という考えを基盤に、支援者が自分の持つ力を発揮し、よりよい支援を持続的に行えるよう、全国で講座や研修を提供するとともに、支援者同士のネットワークづくりを推進しています。

職員が疲弊し、つぎつぎ倒れ、辞めていく

依存症、外国籍、未成年、妊婦、本人や子どもが発達障害、精神疾患、知的障害など、支援には専門性が不可欠

自腹で研修を受けている

研修で他の職場の人とつながることが嬉しい

直接被害者の支援をすることと、 被害を生み出す社会を変えることは 車輪の両輪

DV被害者を支援する現場の声

マニュアルがなく、情報収集も難しい。
先輩からも教えてもらえない

相談員の入れ替わりが激しく
経験が少ないのに難しいケースを担当

支援者が上司や周囲からねぎらいを受けることも必要

スキルアップができる研修の充実

相談員自身が権利意識を持たなければ、
被害者の人権の擁護、回復への支援は出来ない

よりよい支援を持続可能にする

「支援者エンパワメントプログラム」の3つのアプローチ

「つながる」では、支援者サロンを定期的に開催しています。サロンで話したことは外部にもらさないとというルールをつくり、支援者ならではの悩みや苦労話をはじめ、喜びややりがいなどを共有する場を提供しています。

「はかる」では、支援における基本的価値を共有し日々の支援を評価することを目

的に、DV被害者支援のガイドラインやチェックシートを、研究者や大学機関と協働して作成しています。

「まなぶ」では、東京YWCA主催の研修や講座に加えて、相談窓口から一時保護等の施設まで多様な現場のニーズに応じたオーダーメイドの研修を現地で提供し、支援者のスキルアップを支えています。

仲間たちと
つながる



今のちからを
はかる



エキスパートに
まなぶ



支援者のための研修プログラム

幅広い内容で支援者一人ひとりの力を引き出す

DV被害者支援の基本を学ぶ2日間の研修である「DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング」は、2017年度は全国4か所で開催します。オーダーメイド研修では、DV被害者支援に関わる知識から、対人援助のスキル、支援者のメンタルヘルス、組織マネジメントなど、幅広い内容を提供しています。新しい知識や技術を獲得するだけでなく、参加者同士や講師との意見交換、体験ワークの中で気づきや自己理解を深め、支援者が自分で考えて自分の力を引き出すことができるように工夫しています。

※DV被害を受けているもしくは受けたことがある人を、試練の中で生き続けている力強い人という意味で「サバイバー」と呼びます。

「DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング」に参加して

 民間支援団体／支援員／H・Wさん

かつてDVを経験した私は「支援される側から支援する側へ」という思いで、自分の経験のみを基に支援を行っていました。支援者になる為の研修を受けたことがなかったので、スキルがなく不安で自



体験ワークも交え、充実した内容

信がありませんでした。YWCAの支援者トレーニングを受講したことで足元がしっかり固まり、支援員として強い意志を持ちながらサバイバーに寄り添うことができるようになりました。

現場で同僚たちと一緒に定期的に研修を受ける効果

 女性のための入所施設／生活指導員／A・Uさん

私たちの施設では、2015年から講師派遣を依頼し、女性支援の勉強会を年3回、職員のためのセルフケア講座を年3回行ってきました。これまでDVの構造や、依存症、パーソナリティ障害などの精神疾患を持つ女性支援のスキルなど経験豊富な講師と共に学んできました。それらは施設全体のスキルアップにつながり、日々の業務に生かされていることを実感しています。



施設の担当者に研修のニーズを聞く

精神疾患を持つ女性支援のスキルなど経験豊富な講師と共に学んできました。それらは施設全体のスキルアップにつながり、日々の業務に生かされていることを実感しています。

日本全国の支援者に研修の機会を被害者支援の質向上のために

 ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会／井筒美和さん

当委員会は、健康に関する様々な社会問題への、長期的な視点での取り組みの中で、非営利団体(NPO等)に対しプロジェクトへの助成を行っています。東京YWCAがおこなうDV被害支援者の育成プロジェクトへの助成を通じて被害者支援の質が向上し、全国で支援者のコミュニティが形成されて、被害者が適切な支援をうけられるよう期待しています。



信がありませんでした。YWCAの支援者トレーニングを受講したことで足元がしっかり固まり、支援員として強い意志を持ちながらサバイバーに寄り添うことができるようになりました。

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください 研修会の日程はWebサイトをご覧ください

平和と人権事業部
女性と少女の人権課

☎ 03-3293-5434 ✉ josei@tokyo.ywca.or.jp
🏠 <http://www.tokyo.ywca.or.jp/woman/empowerment/>



映画『みんなの学校』上映会

「この映画をたくさんの人に見てもらいたい！」
青年リーダーの発案で実現した上映会

この映画の舞台である大阪市立大空小学校では、子ども一人ひとりを大切にしている学校作りを行っています。映画を見た青年リーダーの呼びかけに、子どもの活動に携わる学生リーダーや、教員をしている20代のリーダーが共感し、チームを組み上映会を実施しました。当日3回の

上映で計202名が集まりました。来場した学生から「子どもにとって理解してくれる存在がどれだけ大切か感じた」という声もあり、映画を通してあらゆる子どもとの関わりを考える場となりました。チームのメンバーには、イベントを企画、運営する貴重な機会にもなりました。



来場者の感想を背景にプロジェクトチームのメンバーで



©関西テレビ放送

イベント「沖縄の現実と、いま、私たちができること」

「むさしの市民平和月間」参加プログラム
在日米軍基地の74%がある沖縄を考える

11月20日、沖縄を身近に知る集いを開きました。はじめに、沖縄YWCA会長糸洲のぶ子さんが沖縄の抑圧された歴史、基地建設により美しい自然と穏やかな暮らしが奪われている現実を豊富な資料と映像を用いながら、自らの意識の変遷とともに語られました。続いて、武蔵野市民の現地訪問等の取り組みについて、訪問団メンバーから聞きました。最後は音楽家である糸洲さんが「芭蕉布」をピアノ演奏し、中には涙する人も。会場に置かれた沖縄に関する資料や基地撤回を求める署名用紙は、参加者一人ひとりの行動の手がかりとなりました。後日、イベントに触発され、沖縄に行き直接現実を見、人々に耳を傾けてきたという声も届いています。



会場の武蔵野センターは40名を超す人々でいっぱい

女の防災Night、第2弾！

今年のテーマは災害とストレス
昨年同様、若手職員のチームが企画運営

若い女性に東京YWCAを知ってもらうきっかけにしたいと、11月に実施したイベントです。参加者は20～30代を中心に18名が集まりました。前半はストレスのしくみや対処を学び、後半は、災害時に自分を励まし癒してくれるものを持ち歩けるよう、好きな言葉やお気に入りの絵、気を静める香りなどで「わたしの元気手帳」をつくるワークショップを行って、大変好評でした。参加者からは「講師もスタッフも全員が女性で安心できる空間だった」という声もありました。



ストレス解消法
ビンゴでは、参加者どうしが
打ち解け、笑顔がはじけました

武蔵野センター移転

吉祥寺駅から徒歩10分、新たな出発

東京YWCA武蔵野センターは、武蔵野市の道路拡幅計画に伴い、長年慣れ親しんだ三鷹駅近くの地を離れました。2017年1月17日より新しい拠点で、事業を継続しています。

東日本大震災被災者支援事業 避難している人はいま

東京近郊に避難している人の状況を一般に広く知らせ、支援への理解を深めるために、避難している人と支援団体、行政をパネリストに迎え、9月16日に広域避難者支援連絡会in東京と共

催でシンポジウムを開きました。140人余りの参加者からは、現状がよくわかったという声とともに、5年余りがたち報道が減る中で、忘れてはいけないとの感想が聞かれました。

